啄木の地 若き感性競う

盛岡で短歌甲子園開幕

県勢5校が意気込み

石川啄木の歌碑の前で、思い思いにイメージを膨らませる選手たち＝19日、盛岡市玉山区・渋民公園

全国高校生短歌大会短歌甲子園２０１５（同実行委主催）は19日、盛岡市玉山区渋民の姫神ホールで開幕した。第10回の節目となる今回は全国35校から選手や引率教諭ら約１６０人が参加し、頂点を目指して感性を競う。

同日は開会式の後、啄木ゆかりの地を巡り歌を考える題詠ツアーを実施。各校には「歩」「森」「忘」から2題が与えられた。

横手（秋田）の鈴木花蓮さん（1年）は「啄木の育った自然豊かな地はまるで自分の古里のよう。その良さをしっかり表現したい」と意気込む。

県勢はともに9度目出場の盛岡二、盛岡四と、5年連続出場の沼宮内、7年ぶり出場の盛岡商、初出場の花北青雲の5校が出場。

盛岡二文学研究部は昨秋、当時の3年生が引退し部員が2年生だった番沢芹佳さんだけになった。番沢さんは「人数不足で大会に出られないのは絶対嫌。本当に必死だった」と部員集めに奔走。

長年受け継いできた伝統と、和気あいあいな雰囲気を必死にアピールし、徐々にメンバーを増やした。3年生となった現在は6人の仲間が集い、「みんな一つの家族のようで楽しい毎日。感謝の思いで全力を尽くしたい」と決意を語る。

盛岡四の古川智梨さん（2年）は「時間を限ってさまざまな題の歌をつくった」と、重ねてきた練習量に自信を見せる。

盛岡商の鷹觜望生さん（2年）は「先輩が行けなかった決勝トーナメントに絶対進む」と闘志を燃やす。

花北青雲の高橋百香さん（2年）は「3人のチームワークはどこにも負けない」と総合力で勝利を誓う。

沼宮内の武田亜美さん（3年）は「他にはないユニークな作品をつくる」とオリジナリティーを磨く。

県勢は次の通り。

▽盛岡二　番沢芹佳　佐藤楓　賀東萌々香▽盛岡四　武田穂佳　古川智梨　土谷映里　徳田智仁▽盛岡商　武蔵陸　菊池華世　鷹觜望生▽花北青雲　川村姫華　高橋まどか　高橋百香▽沼宮内　武田亜美　千葉美幸　西田こずえ